

戦中、冒された尊厳

多くの障害者は戦争中、「穀(こく)つぶし」「非国民」などのしられ、肩身の狭い思いをしながら暮らしていった。障害があっても尊厳を持って生きられる平和な社会にするためには、戦争法は廃止しかない。戦争を体験した90歳の脳性まひの男性は訴えます。(岩井亜紀)

脳性まひで重度の障害

東京 松田 春廣さん(90)

「最近、戦争当時のことを思い出し、悲しい気持ちでいっぱいになります。嫌な思いをいっぱいしてきました。車いすの上から話すのは、東京都武蔵野市の松田春廣さん(90)。脳性まひで重度障害があり、24時間介護が必要です。「過去の過ちを反省し、戦争は絶対にしてはいけない」と強調します。

松田さんは1925年7月、いまの東京都台東区で生まれ、間もなく1週間続いた高熱で障害を負いました。6

日本政府は昨年1月、国連

人きょうたいでした。4歳年上の姉はかわいがってくれましたが、2歳年上の姉は来客があるたび、松田さんを抱きかかえて押し入れの中に押し込んでいました。忘れられないのは、44年に受けた徴兵検査です。結果は「丁種合格」。兵役に適さないとされました。一目で障害があると分かるのに、なぜ検査を受けなければならぬのか。恥ずかしさと悔しき、怒りが込み上げました。



松田春廣さん(東京都武蔵野市)

なくそう
戦争法

平和な社会へ「政権倒す」



総がかり行動の「戦争法案反対！国会包囲行動」に参加した松田さん=7月26日、国会前

の障害者権利条約を批准しました。障害者の尊厳を尊重し、障害の有無にかかわらず誰もが当たり前に暮らせる社会をめざすものです。

この動きを歓迎する松田さん。「たんぼば会」を立ち上げ、障害者が高齢者、そしてその生活を支える介助者を含め、誰もが明るく生活できるよう社会保障の充実を訴えます。同時に、海外で戦争する国づくりにひた走る安倍政権を込めます。

「倒すしかない」と話します。夏の暑い最中、都内の宣伝行動や国会前行動に参加し、戦争法案反対の声を上げました。

「憲法違反の戦争法を廃止するためにも、日本の政治を変えなければなりません。来年の参院選で、『国民連合政府』を提案している日本共産党の議席を増やせるようにがんばりたい」。松田さんは力を込めます。

11/24 藤原